



平和の花を咲かせるおはなし会の参加者で記念撮影

## 目次

信州・戦争展 大特集！！！！

反核医師のつどいin北海道

ABC for peace(いっぽプロジェクト)

核兵器禁止条約 第2回締約国会議

第3回定期総会のお知らせ



わいわい楽しいブース

## 信州・戦争展 大特集！！！！

11月3日～5日、松本市勤労者福祉センターにて「平和のための信州・戦争展 松本」が開催されました。地域のさまざまな平和団体、市民団体の皆さんが集まって実行委員会を構成し準備を進めてきました。それぞれの団体が工夫を凝らしたブース展示のほか、映画上映、うたごえ、シンポジウムなど盛りだくさんの企画でした。当日は多くの市民の方が訪れ、3日間通しての全体の来場者数は550人とのことでした。長野反核医療者の会は今回、実行委員会に加わりブース出展「おてがみアクション」と、平和の種をまく会と合同で「平和の花を咲かせるおはなし会」の企画を行いました。

## ブースでの署名や対話

ブースでは反核医師の会学生部会の発表や国会議員に意見・思いを届けるFAXアクションを主に行いました。ブース内での対話では「岸田はダメだ」と言った厳しい意見から「核じゃ平和は守れない」「岸田さんも広島出身なのにね…」、「唯一のヒバク国民として悲しい」と言った声も聞かれました。

ウクライナ-ロシア間、イスラエル-パレスチナ(ガザ)間と戦争が続いている現状を嘆く声もブース内外で上がっており、同時にそういった情勢下でも声を上げない日本政府へ呆れと怒りの声などもあり、やはり思いは同じなんだなぁと感じました。また、「何にもできないけど…」と言いながらも署名をしてくださる方や「少しだけ」とカンパしてくださった方もいらっしゃって、とても勇気付けられました。

よく平和への運動をしていると「若いのに偉いね」「若いのが知ろうとしてくれるのはありがたい」というような言葉をいただきます。年々戦争を知っている(体験した)方が減り、戦争を知らない世代が増えているいまだからこそ戦争を知らない世代が率先して学び、伝え、平和への声を上げ、行動する必要があると改めて感じました。



署名に協力してくださる人



熱いおてがみがたくさん！

## 日本政府に核兵器禁止条約への参加を呼びかける おてがみアクション

「日本政府に核兵器禁止条約への参加を呼びかけるお手紙アクション」では、岸田首相や長野県選出の国会議員宛にみんなでメッセージを書いてその場でアプリを使って首相官邸や国会議員にFAXを送りました。たくさんの方が熱いメッセージを寄せてくださいました。その一部を紹介します。

岸田首相宛「日本は世界で唯一の被爆国です。そして、世界に誇れる平和憲法を持つ国です。日本がすべきことは核兵器廃絶のリーダーになることです」、「私は3人の子供の母親です。日本に落とされた原爆被害の想像を絶するありさまは言葉に尽くすことができません。核兵器はノー！ノー！ノー！第2回締約国会議へのオプザーバー参加を心から求めます！」

長野県選出の国会議員宛「国民は防衛費UPなんて望んでいないことを国会にたくさん届けてほしいです」

集まったメッセージはマスキングテープやカラーペンでデコレーションしてブースに飾っていきました。

## 平和の花を咲かせるおはなし会

「平和の種をまく会」は、2005年から平和主義の重要性を訴えてきた市民団体です。平和活動の先輩方との合同企画は少し緊張して始まりましたが、「戦争は絶対にしてはいけない」という同じ気持ちを持って行動する多くの方に出会い、希望を再確認しました。

平和の絵本の感想交流から始まりました。作り手たちの調査に基づき、戦争を静かなタッチで伝え描く「絵でみる広島原爆」や、古い知識しか持たない主人公たちが、原子爆弾が落ちたことに気づかず過ぎてしまう哀しい悲劇を描いた「風が吹くとき」、広島原爆ドームが自らを「ドーム」と称して、生い立ちや戦争が始まる雰囲気を取り返す「ドームがたり」。さまざまな描き方で、戦争を知らないことの愚かさを絵本は伝えてくれます。

その後、長崎大学核兵器廃絶研究センター(RECNA)准教授の中村桂子先生の講演を視聴し、意見交換をしました。中村先生は「核兵器廃絶を訴えると現実離れしていると批判されることもあります。しかし核兵器廃絶こそが平和への現実的な道であり、希望を持つことが大事。その希望は楽観とは違うのです。」と述べていました。この言葉には多くの方が共感したのではないのでしょうか。若い人の活動がとても嬉しいと、先輩方が言って下さったことは、私を含め、反核医療者の会メンバーの心に強く残ったと思います。参加して下さったたくさんの方々に心から感謝します。



円になってみんなでおはなし



平和の種をまく会さんの絵本紹介



平和への想いを歌声にのせて

## うたごえ企画～無言館をうたう～

戦争展では、うたごえ企画もありました。平和の歌をうたう合唱団の方々が長野県内各地から松本に集まり、総勢60人以上の大合唱団で「こわしてはいけない～無言館をうたう」を歌いました。この曲集は、上田市で戦没画学生の作品による美術館「無言館」を主宰している窪島誠一郎さんが作詞し、池辺晋一郎さんが作曲・編曲したものです。日本国憲法が改悪されようとしており、「このこわれそうなものをこわしてはいけない」という思いが込められています。「1.人は絵を描きたい」には、戦争により命を奪われ、思う存分絵を描くことができなかった画学生の、悲痛の叫びが込められているように感じます。「憎しみも争いも銃も剣も飢えている人も故郷を失う人もいないこの地上に生きるものすべてのいのちを描きたい」という言葉は、パレスチナ・ガザ地区での戦闘によりいのち、故郷を奪われている人々とも重なります。「2.こわしてはいけない」には、「可愛いマグカップ」「フタのない筆箱」など、可愛らしい日用品がいくつも出てきます。そうした日用品と同列に語られる「私たちの憲法」は、日用品と同じように日々溶け込み、あることが当たり前になってしまうけれど、絶対に欠かせないもの、という意味が込められているように思います。「6.抱きしめよう」は、かなしみもよるこびも、そして「人間ぜんぶ」も抱きしめる壮大なメッセージがそのメロディとハーモニーで表現されています。演奏後は拍手大喝采で、大成功の演奏会となりました。今回、当会メンバー3人がうたごえに参加しました。

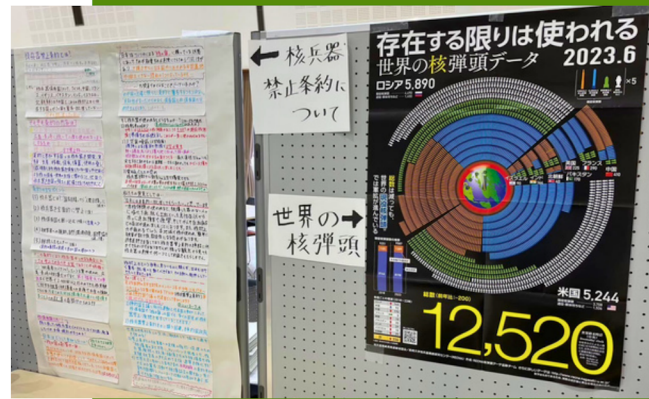
# RECNAポスター展示

RECNA（長崎大学核兵器廃絶研究センター）の作成した「世界の核弾頭データ」ポスターを貼り出しました。RECNAは世界で唯一核廃絶の研究を専門としている大学の機関です。そのRECNAが毎年、世界にはどんな種類の核弾頭がどのくらいあるのかを調査して公表したものがこのポスターです。ポスターを見ていただくと、全体の9割の核弾頭をアメリカとロシアが持っていて、双方互角に睨み合っている、という構造がわかります。

2023年6月時点で、世界には12,520発の核弾頭が存在しています。広島や長崎の原爆投下を知る皆さんは、一発でもあれだけの生き地獄を引き起こす核兵器が、今こんなにたくさん作られているのかとびっくりされることでしょう。G7広島サミットで岸田首相は、「核弾頭の数はずっと減少している」と強調しました。総数を見るとそれは事実で、減らしていくのは大事なことです。とはいえ多すぎる！この1年で200発の核弾頭が減りましたが、そのペースだと核弾頭をゼロにするにはこの先60年以上かかってしまう。さらにこの1年で減った200発というのは「退役・解体待ち」というすでに使い物にならない核弾頭なんです。ポスターで白いマークが「退役・解体待ち」ですが、逆にいうと赤青緑のマークの核弾頭はいつでも使えるように世界中に配備されているんです。多すぎますね。

また、核兵器は自動車や冷蔵庫などと同様に、機械なので経年劣化していきます。冷戦時代に大量に作られた核弾頭（1980年代には7万発！）の多くが今、寿命を迎えています。それらを全て解体していけばいいものを、老朽化した核弾頭は、より能力の高い最新のものに作り変えて取り替えられています。

ということで、このポスターの1番重要なポイントは、「現役核弾頭」の数や質を見ると核軍拡が進められているということなんです。あらためて、これだけの核の脅威がある世界に生きる私たちが、核廃絶に取り組まなければいけない、と思います。



RECNAポスターと核兵器禁止条約解説 ↑

↓ ブースを訪れた人にポスターを解説



## 反核医師の会学生部会代表・藤岡さんが参加！ 感想を寄せてくれました♪

こんにちは。私は反核医師の会学生部会の代表の藤岡篤司と申します。11月3日～5日開催の「平和のための信州・戦争展in松本」に今回参加し、主に長野反核医療者の会のお手伝いや学生部会からは核兵器禁止条約と世界の核兵器の現状についてのポスター展示もさせていただきました。

余談ですが、私は今回初めて長野県を訪れましたが、電車内から眺める景色はすごく自然豊かで、ゆったりとした雰囲気ですごく癒されました。また遊びに行きたいです。

「平和のための信州・戦争展in松本」では、いろんな団体の活動内容や写真などが展示されており、またプログラムも充実しており盛りだくさんな展示会でした。そして、たくさんの住民の方が過去の過ちを繰り返させない、そして今後も平和な世界が続くことを願ってそれぞれができることを今までずっと継続してこられたんだと感動し、すごく刺激になりました。

私は、今まで原爆や核兵器のことについて学んできて、今の自分の考えをいろんな人に伝えたい、反核の意識を広めたいと常々思っていました、社会からのバッシングを恐れ行動していませんでした。

しかし、社会を変えるためにはそれは当然のことで、避けて通れません。ではなぜ活動続けるのか、それは本当に社会を変えたいという意思があるからで、今回の戦争展に参加した皆さんはそれがしっかりされていると感じました。そして、同じ思いを持った仲間が集まり活動することで大きな力になっていくのだと感じました。皆さんから今回刺激をもらったことに感謝と尊敬の念を抱き、少しずつですが自分のできることをしていきたいですし同じ思いを持った仲間を増やして活動をより大きなものにしていきたいです。ありがとうございました。



藤岡 篤司 反核医師の会学生部会代表 東北医科薬科大学 医学部医学科5年

# 反核医師のつどい in 北海道

9月23日～24日、「反核医師のつどい」が北海道で開催されました。当会から現地(6人)とオンライン(4人)で参加しました。1日目は元外務省国際情報局長の孫崎亨さん、ピースボート共同代表の川崎哲さんが講演。ウクライナ情勢の中でどのように戦争を回避し、核兵器のない世界を作っていくのかを学びました。また、北海道の「被爆二世プラスの会」の川去裕子さん、Ant-Hiroshima理事長の渡部朋子さんからはヒバクシャ運動の継承や新しい運動の形について報告がありました。2日目は室蘭工業大学名誉教授の宮尾正大さん、核燃料サイクル阻止1万人訴訟原告団運営員の澤井正子さんが講演。環境や人体に深刻な負の影響をもたらす日本の破綻した原発政策について考えさせられました。「子どもたちに核のゴミのない寿都を！町民の会共同代表の三木信香さんからは核のゴミ最終処分場に反対する北海道寿都町の運動を報告していただきました。

## ABC for PEACE (いっぽプロジェクト)発足！

反核医師のつどいin北海道では、ABC for PEACE (通称：いっぽプロジェクト)が結成されました。立ち上げにかかわった若手医師の多くは、「反核医師の会 学生会」としてつどいに参加し、医学生の間から核兵器廃絶に向けて考え行動してきました。実際に医師として働く中で「もっと主体的に反核活動ができる場所が欲しい」「活動の輪を職種を超えて広げたい」という思いで本プロジェクトの立ち上げに至りました。長野反核医療者の会からも多くの若手メンバーが参加しています。すでに多彩な活動が始まっており、SNSでの発信も行っていますので、ぜひチェックしてみてください。ABC for PEACEはAction and Bridge by healthCare workers for Peace の略でそれぞれ以下の思いが込められています。

### Action

「学ぶだけじゃない」アクションを起こし私たちが核兵器廃絶の担い手として成長していく！

### Bridge

「集まるだけじゃない」若手で集うだけでなく、地域や世代の懸け橋にもなる！

### healthCare worker

「医師だけじゃない」様々な職種の医療・介護従事者が対等な立場で活動する！

## 核兵器禁止条約 第2回締約国会議 当会の医師2名がNYで現地参加！

11月27日～12月1日、ニューヨークで開催された核兵器禁止条約第2回締約国会議に当会のメンバー光武鮎さんと河野絵理子さんが現地参加しました。本会議だけでなく、世界の反核運動、被爆者の交流企画などさまざまなサイドイベントにも参加。また、被爆者の方々と一緒にアピール行動もおこないました。12月10日には「いっぽプロジェクト」主催で報告会を開催。核廃絶に向けて間違いなく最大の力をもつ本条約ですが、まだまだ課題も多く、参加した2人からは「この条約は私たち市民で育てないといけない」と。2月には当会と長野県民医連共催の報告会も開催する予定ですのでぜひご参加ください。

## 第3回 定期総会のお知らせ

長野反核医療者の会を結成して4月で2年となります。第3回定期総会を開催します。会員の皆様のご参加をお待ちしております。前半は記念講演(一般公開)、後半は定期総会となります。  
日 時：2024年4月29日(月祝) 13:00～16:30 (予定)  
会 場：松本市勤労者福祉センター3-3会議室/WEB併用  
講 師：猿田佐世さん(弁護士・新外交イニシアチブ代表)  
NY核兵器禁止条約第2回締約国会議の報告も予定しています。



記念講演 猿田 佐世さん

ABC for PEACE  
(いっぽプロジェクト)  
のSNSはこちらから



X (旧ツイッター)



Instagram



いっぽプロジェクトのロゴ

